

小 学 部

1 目 標

- (1) 体験的な活動を通して、興味・関心を広げ、意欲をもって取り組む態度を育てる。 <自ら学ぶ>
- (2) 個々に応じた表現方法を用いて、表現する意欲を高める。 <豊かに表す>
- (3) 健康面に配慮すると共に、基本的な生活習慣の獲得を促す。 <健やかに生きる>
- (4) 教師や友達との活動を通して、自ら関わろうとする気持ちを育む。 <手をつなぐ>

2 重点事項

- (1) 児童の「目指す姿」を念頭におき、主体的な姿につながる授業実践をし、評価・改善を通し、次年度の教育課程編成につなげる。

- ①「目指す姿」や自立活動の目標設定が適切か、設定に至る過程で学級等で十分検討をする。
- ②観点を明確にした授業の打ち合わせを行う。
- ③授業における児童の姿から、わかるめあてになっているか、何ができたのか（できなかったのか）という視点で評価し、ねらいの再考、手立て（環境、グループ編成、指導体制、ICT活用、補助具、時間配分等）を検討し、発展的な授業実践をする。
- ④学級・学年通信で、授業のねらい、経過、成果を分かりやすく伝え、保護者、教師間で共有する。

- (2) 様々な人や集団、外部と関わる機会を設定し、学びの広がりを図るとともに、教師間でねらいを共有した学習活動を計画、実践、評価する。

- ①普段と違う集団での学習や外部の人と関わる場面では、様々な気持ちや考えに触れ、気付いたり、考えを深めたりする場になるよう、学習のねらいに基づく最適なグルーピングや関わる必然性のある場面を意図的に設定し、支援方法の共有を行う。
- ②学習グループに応じたねらいを設定し、既習事項を様々な学習や学校生活につなげたり、集団や外部との学習、家庭生活の場で発揮できたりするように、学びをつなぐ視点で、計画、実践する。
- ③交流及び共同学習（オンライン交流含む）では、双方にとって意義のあるものになるように事前にねらいを十分確認し、毎回ねらいを再考する。

- (3) 現在及び将来の生活を考えた基本的生活習慣の確立に向けた実践と児童の学習活動を支える安全な環境づくりをする。

- ①個別の教育支援計画に基づき、家庭や関係機関と連携し、児童の実態や将来の姿に向けた課題や目標を面談等で話し合い、今必要な指導内容を共有して実践する。
- ②インシデント予防対策一覧を随時更新し、関係者間で共有する。インシデント発生後やインシデントにつながりかねない事態が生じたときは、即時に朝の打ち合わせ等で状況や対応策を伝え、安全に、安心して学習に臨めるように危機管理意識を高める。

<訪問教育（在宅、センター訪問）>

○職員間で連携しながら、ICTを活用したオンライン等の授業実践や同行訪問・スクーリングを行い、個々に応じた教材提示の工夫と学校の友達や教師との交流を通して児童の気付きを促し、人と関わる力を育てる。